

R7. 11. 12 (水) 実施

小児看護学方法論 3

単位認定試験問題 (野崎先生)

【問題 1】

子どもへの医療処置に対するプレパレーションで正しいのはどれか。

1. 子どもの病気の治癒を促進する。
2. 泣いてはいけないと子どもに伝える。
3. 両親はプレパレーションに参加しない。
- ✓ 4. 経験するであろう感覚についての情報を子どもに伝える。

【問題 2】

手術を受ける子どもへのプレパレーションの目的でないのはどれか。

- ✓ 1. 心理的準備を促す。
- ✓ 2. 正しい知識を提供する。
- ✓ 3. 医療者の労力を軽減する。
- ✓ 4. 情緒表現の機会を与える。

【問題 3】

標準的な成長・発達をしている 4 歳の男児に対して採血を行う。看護師が男児に採血についてのプレパレーションを実施した。その後に伝えることで適切なのはどれか。

1. 「痛くないよ」
2. 「すぐに終わっちゃうよ」
- ✓ 3. 「何か聞きたいことはないかな」
4. 「やらないと病気になっちゃうよ」

【問題4】

次の文を読み下の問いに答えよ。

Aちゃん（生後5か月、女児）は、出生時、臍の後方に瘻孔があり、腸内容物が排出され、低位鎖肛と診断された。他に奇形は認められず、瘻孔は臍と尿道に交通していなかったため、体重増加を待って会陰式肛門形成術を行う予定とされていた。Aちゃんは順調に体重が増加しており、定期受診のため来院した。

問1. 受診時の観察項目で優先度が高いのはどれか。

- ✓ 1. 活 気
- ② 2. 腹部膨満
- 3. 腹部腫瘍
- 4. チアノーゼ

問2. Aちゃんは、定期受診の1か月後、予定どおり会陰式肛門形成術を行った。術後2日、1日に6回の排便があり、造設された肛門周囲に発赤がみられている。排便後の対応で最も適切なのはどれか。

- 1. 石けんで洗浄する。
- ✓ ② 2. 微温湯で洗浄する。
- 3. お尻拭きシートで拭き取る。
- 4. ポビドンヨードで消毒をする。

問3. 術後2週、全身状態や創部の状態が安定し、肛門拡張のためのブジーが開始された。退院後もブジーを継続するため母親に指導を行うことになった。ブジーの指導で正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. 「食後は避けてください」
- ✓ 2. 「腹臥位で行ってください」
- 3. 「できるだけ深く入れてください」
- 4. 「排便があった日は行わなくてよいです」
- ✓ 5. 「直腸の向きに沿ってゆっくり入れてください」

【問題5】

次の文を読み下の問いに答えよ。

Bちゃん（生後3か月）は、体重2,850gで出生した。Bちゃんは、出生直後から心雑音を認め、中等度の心室中隔欠損症と診断された。強心薬と利尿薬との内服で経過観察していた。昨日から喘鳴と哺乳力低下とがみられるようになり、心不全の治療のため入院となった。入院時、Aちゃんは体重5,050g、体温37.6℃、呼吸数52/分、発汗が著明である。チアノーゼはみられない。

Bちゃんの血行動態で正しいのはどれか。

1. 肺血流量の増加
2. 右心室からの左心室への短絡
3. 大動脈からの肺動脈への短絡
4. 大静脈から還流する血液量の増加

【問題6】

次の分を読み下の問いに答えよ。

7歳の男児。両親と4歳の妹の4人家族。今回、心室中隔欠損症の手術目的で入院となった。入院中の付き添いは母親が行い、4歳の妹は母親の実家で生活を送ることとなった。父親は時折面会に来ている。

問1. 手術を受ける小児の特徴として適切でないものはどれか。

1. 小児が手術を受ける原因は後天的な疾患であることが多い。
2. 新生児の緊急手術、時期を待っての一時的な根治術、症状が出現したら直ちに行う準緊急手術、時期をみて行う計画的な手術がある。
3. 小児の身体機能は発達段階にあり未熟であるため、呼吸困難や脱水症状に陥りやすく合併症の発生の危険が高い。
4. 先天的に形態的な形成不全や機能的障害がある場合は、臨界期までに治療が終了していないと、基本的生活習慣の獲得に大きな困難を伴う。

問2. 入院時の看護で適切でないものはどれか。

【3 設問】

1. 鼻汁と咳嗽があったため採血を行い、感染の有無を確認して入院となった。
2. 入院時、妹が水ぼうそうで保育園を休園中であった。本人に罹患歴はなかったが症状がないため入院となった。
3. 入院時に採血やレントゲン、心電図検査が行われ、バイタルサイン、身長・体重測定を行い全身状態の観察を行った。
4. 入院による環境の変化に不安が伺えたため、オリエンテーションを十分に行い、不安の訴えに対して少しでも緩和できるように対応した。

問3. 手術を受けた子どもの身体への影響で適切なものはどれか？

1. 毎日の消毒は子どもにとって苦痛ではないのでいつ行ってもよい。
2. 麻酔薬の影響で舌根沈下がおこり気道閉塞しやすい。
3. 子どもは説明すると創部の安静を保つことができるため出血を誘発することはない。
4. 子どもは感染に対し免疫力があるため感染しにくい。

問4. 術後、ICUへ入室した。術後の看護で適切でないものはどれか。

1. モニタリングが行われ、全身状態の観察を頻回に行う必要がある。
2. 術後はたくさんの管やコードにつながれていたり、機械の音などで子どもが混乱する場合があるため、術前にICUの説明や見学を行う必要がある。
3. 意識がはっきりしてくると、疼痛や管による苦痛があるため鎮静剤を使用する。
4. 身体抑制は原則として行ってはいけないため、安全のためとはいえ、身体をヒモなどで抑制をすることは禁止している。

各2点 (計22点)

【問題7】

子どもの生理・解剖学的特徴で正しいのはどれか？

1. 舌が小さく、鼻腔、咽頭、気道が狭い。
2. 腹部臓器が大きく、横隔膜を圧迫している。
3. 細胞内液の割合が大きい
4. 体重あたりの心拍出量が少ない

3点

【問題2】

手術を受ける子どもへのプレバレーシヨンの目的でないのはどれか。

1. 心理的準備を促す。
2. 正しい知識を提供する。
3. 医療者の労力を軽減する。
4. 家族教育の機会を与える。

【問題3】

標準的な成長・発達をしている4歳の男児に対して採血を行う。看護師が男児に採血についてプレバレーシヨンを実施した。その後に伝えることで適切なのはどれか。

1. 「痛くないよ」
2. 「すぐに終わっちゃうよ」
3. 「何か聞きたいことはないかな」
4. 「やらないと病気になるっちゃうよ」

小児看護学方法論 3 (野崎先生)

令和 7 年 11 月 12 日 (水) 実施

問題 1	4
問題 2	3
問題 3	3
問題 4	問 1)
	2
	問 2)
問題 4	2
	問 3)
	2 5 -1
問題 5	2
問題 6	問 1)
	1
	問 2)
	1
問題 6	問 3)
	2
問題 6	問 4)
	4
問題 7 ※3 点	2

-5

問題 1 ~ 6 : 各 2 点

20
点 / 25 点